



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会  
復刊第233号  
2018年5月1日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

### 東西支部の活性化

副会長 大谷智子



記録的な寒い冬の後には、例年より早い桜の便りでした。3月の日本女医学会定例理事会に、淡いピンクの桃カステラが各席に置かれていました。2月18日に長崎でのブロック懇談会を開いて頂いた黒崎伸子支部長からの温かな心遣いとのことでした。毎年、全国で行われるブロック懇談会は地域の女医学会の先生方や地元で活躍されている先生方と身近に交流できる企画です。今回も長崎大学を中心に先進的な女性医師の支援活動や公的な協力体制を聴くことができました。忙しい中、参加頂いた皆様や長崎支部の関係者の先生方に感謝申し上げる次第です。

ところで、今年は役員改選が年初より行われました。故山本繡子前会長の想いであった役員選挙の規程改正が承認され、新しい規程にて役員選挙が行われたことに感慨深いものがあります。選挙制度改革委員の先生方の尽力で草案を作成し、実施にあたり全国の支部長の先生方に大変お世話になりました。2020年の改選に向けては、今回実施された改正選挙についてのご意見を頂き、検討を重ねて完成形に近づけられればと考えています。

全国の日本女医学会の会員1200余名の中で、東日本に在籍する会員は約760名で2/3を占めています。本部が東京であり、本州の東寄りに位置しているためか会員数に東西の差があるようです。日本の大学医学部

は東日本に35大学、西日本に47大学があります。従って、医学部の数から鑑みると日本女医学会の会員数は逆の傾向になっています。過去の日本女医学会の動向から考えると、理事選出の多い地域は会員数も増える傾向にあることから、積極的に日本女医学会の理事に立候補して頂き、東西の会員の隔たりを無くすことが理想と感じています。しかしながら、地方に居られる多忙な先生方には東京までの理事会参加が負担になることが懸念されます。様々な学会などでも試みられているように、スカイプの利用やネット会議などが導入されるのも今後の課題と思われまます。

日本女医学会の学術研究助成は、女性医師の研究を支援する重要な事業の一つです。インターネットのホームページでも紹介されていることから、ここ数年は多数の応募を頂き選出するのが大変難しい状況です。その中でも西日本からの女性医師の先生方の活躍は素晴らしく、多くの先生方が受賞されています。このように全国の女性医師に対し広い門戸を開いている日本女医学会ですので、多くの先生方に入会頂き、理事として運営に携わって頂くことを切に期待しておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

\*注：文中の東日本と西日本の区分は、日本女医学会支部の地域別分類に準拠し、東日本は北海道・青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・茨城とし、それ以外の府県を西日本とさせていただきます。

## 日本女医学会誌 (第233号) もくじ

### 巻頭言

大谷智子 ..... (1)

### 各部・委員会よりー2年間を振り返って

馬場安紀子、内潟安子、澤口聡子、中田恵久子、花岡和賀子、前田佳子、宮崎千恵、大谷智子、福下公子 ..... (2)

### 第7回提言論文

「それは本当に女性医師だからの問題なのでしょうか？」門脇麻衣子 ..... (5)

第63回定時総会のお知らせ ..... (5)

### 第21回ブロック懇談会

馬場安紀子 ..... (6)

### 委員会報告

長寿社会福祉委員会：福下公子、濱田啓子、今村純子 十代の性の健康支援ネットワーク事業委員会：宮崎千恵 (7)

### 国際女医学会通信⑭

CSW62参加の手引き Part 1 ..... (8)

### 日本女医学会アーカイブ④

高橋瑞子女士訪問記 ..... (9)

理事会議事録 ..... (11)

厚生労働省より 平成30年度「児童福祉週間」のお知らせ ..... (13)

各賞・助成のご案内 ..... (14)

会員動静／寄附者一覧／編集後記 ..... (16)

# 各部・委員会より

## 2年間を振り返って

### 庶務部

馬場安紀子

平成 28、29 年度の庶務部は、前田佳子会長（当初は副会長）のもと、部長馬場安紀子と岩崎恵美子、今村純子の3名で活動いたしました。

#### 1) 定時総会の開催

第 61 回：平成 28 年 5 月 15 日に東京都にて開催。

同日、特別講演：最新の女性下部尿路症状のプライマリケア（講師：日本大学泌尿器科教授 高橋悟先生）を開催。第 62 回：平成 29 年 5 月 14 日に埼玉県大宮市にて開催。同日、特別講演：C 型肝炎ウイルスを飲み薬で消せる時代へ（講師：埼玉医大消化器・肝臓内科教授 名越澄子先生）を開催。

#### 2) 理事会の開催

平成 28、29 年とも、年 8 回ずつ開催し、意見交換が行われました。

#### 3) 日本女医会吉岡彌生賞

平成 28 年度は、社会に貢献した女性医師として大阪支部の生野照子先生が、平成 29 年度は、医学に貢献した女性医師として北海道支部の旭川医大教授、山本明美先生が受賞されました。

#### 4) ブロック懇談会

第 20 回：平成 29 年 2 月 19 日に松本市（長野支部）で開催。

第 21 回：平成 30 年 2 月 18 日に長崎市（長崎支部）で開催。

#### 5) 役員選出規定の改正承認

第 62 回定時総会において役員選出規定の改正が承認され

ました。本年 1 月に新規定に基づく役員選挙の告示があり実施されました。

定時総会、ブロック懇談会におきましては会員の皆様には多大のご尽力を賜り誠にありがとうございました。今後も引き続きご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

### 学術部

内潟安子

平成 28～29 年度は、前田会長のご指導のもと、磯貝晶子理事と活動しました。

各賞の受賞者の選定は会長、副会長、学術部理事と外部委員によって行われます。平成 27 年度と平成 28 年度は下表をごらんください。現在までの受賞者と受賞者の軌跡は HP を参照ください。

新しく溝口昌子賞が設立され、平成 28 年総会で野村先生、平成 29 年総会で清水優子先生が受賞されました。前会長のご遺志を継承していくべく、平成 30 年度から山本繡子賞が設立されます。ふるって応募ください。

新しい治療とトピックスは昨年 7 月にマンモグラフィ健診のことについて福田護先生にご寄稿いただきました。

### 事業部

澤口聡子

日本女医会理事 2 期を務め、事業部長を拝命しましたこと

#### 学術関連の授賞一覧

(敬称略)

年度	賞	表彰日	受賞者氏名	所属・役職	研究課題
	第 1 回山崎倫子賞	第 62 回定時総会 (大宮) H29 年 5 月 14 日	林 香	慶應義塾大学医学部 予防医療センター助教	『腎系球体ポドサイトにおける DNA 損傷修復の病態生理学的意義の解明』
H 28 年度	第 37 回学術研究助成	第 62 回定時総会 (大宮) H29 年 5 月 14 日	山崎 理絵	慶應義塾大学医学部血液内科 特任助教	『同種造血幹細胞移植後 BK ウイルス感染症の予防法および新規治療法の開発』
	第 2 回公益社団法人 日本女医会溝口昌子賞	第 62 回定時総会 (大宮) H29 年 5 月 14 日	筒井 幸	秋田大学附属病院 助教	『精神疾患における抗 NMDA 受容体抗体の関与とその臨床的意義』
	第 2 回山崎倫子賞	第 63 回定時総会 (東京) H30 年 5 月 20 日 予定	清水 優子	東女内支部	
H29 年度	第 38 回学術研究助成	第 63 回定時総会 (東京) H30 年 5 月 20 日 予定		H29 年 3 月 17 日選考終了	第 63 回定時総会席上にて発表の予定
	第 3 回公益社団法人 日本女医会溝口昌子賞	第 63 回定時総会 (東京) H30 年 5 月 20 日 予定			

を大変光栄に思い2年間を過ごしてまいりました。

引き継ぎ当初、事業部としての課題は、事業予算の獲得と新規事業の立ち上げと認識しておりました。二つの課題に手をつける前に、これまで日本女医会で行われてきました事業を評価し、今後の事業にどのように反映するかを把握することと致しました。

日本女医会におきまして講演会は大変多く開催されておりますが、その他に調査事業と人材育成事業が行われておりますことは、これまで見過ごされがちでありました。双方、各一つずつ具体的な事業をピックアップし、事業報告書を追加解析し、国内外の学会で発表してまいりましたことは、新しい日本女医会事業部の試みと考えております。調査事業としては、1997年に日本在住の全女性医師(27,779名)を対象に就業状況に関するアンケート調査が行われており、20余年が経過しており再度全国調査を行う時期にあり今後に向けて検討して参りたいと存じます。人材育成事業としては、高齢者のQOLの確保をめざした「たんの吸引事業」の報告書を、異なる視点から追加解析し、国際会議としてUNESCO-CHAIR(キュプロス・リマソール)で、国内会議として日本公衆衛生学会で発表して参りました。複数の解析手法を用い、人材育成事業や講演会の開催が、事業後の聴衆の行動変容に結びつく割合が思いのほか低いことが示唆されております。更に、たんの吸引事業におきましては、高齢者・小児双方ともリスクの存在に今後より注目される必要があることが、会場での討議によりあがってきており、今後の人材育成に寄与する結果となっており、現在、日本女医会発の論文としてまとめております。

これらの日本女医会の事業活動を、本年度の公衆衛生学会シンポジウムにおいて人材育成の試みとして報告する準備を致します他、国の事業を中心にいくつかの申請を準備しております。これらの申請を通じて、事業部資金の拡大を試行しております。2年間、事業申請に関する情報は、理事会を中心にメール配布して参りましたが、今後、支部にも同時送信できる形を構築して参ります。今後も、全会員の皆様と共に、肯定的な寄与ができますことを祈念しております。



## 渉外部

中田恵久子

渉外部は、諏訪美智子渉外部担当副会長、泉美貴理事、そして中田恵久子の3名です。主な活動は国際婦人年連絡会の役員会、国連NGO国内女性委員会および関連セミナーへの出席です。特に今回は国連NGO国内女性委員会が結成60周年を迎え、国連を舞台に国際社会で日本のNGO活動が次世

代に受け継がれ、国際社会に貢献することを願って「60周年記念のつどい」が京王プラザホテルで開催されました。前田日本女医会会長をはじめ、副会長、理事が出席し、大変有意義なつどいでした。今後は残された任期満了までしっかりと務めさせていただきます。



## 広報部

花岡和賀子

2016～2017年度の広報部は、福下公子、鈴木カツ子、花岡和賀子の3人で構成しました。女医会誌の発行とホームページからの情報発信などが主たる仕事でした。女医会誌は年に4回発行して日本女医会のみならず国際女医会からの情報をお伝えし、また、各支部からのニュースなどを掲載しておりました。しかし、ここ数年前から特に情報発信のシステムが大きく変化してホームページの充実やリニューアルが必要となり検討してきました。情報発信の変化に対応するため、会誌の発行を年に3回に減らし経費節減をして、平成30年度にホームページを大幅にリニューアルすることにしました。一方で吉岡彌生先生の題字が示すように歴史や伝統のある日本女医会誌も大切にしていきたいと思っています。



## ナショナル・コーディネーター (NC)

前田佳子

NCを拝命してから早くも4年が経とうとしております。引き継ぎらしいものはなくて手探りで始めましたが、会報に国際女医会通信を書かせていただく事で会員の皆様に情報発信が出来るようになりました。国際女医会を身近に感じただけになったのではないかと思います。

この2年間を振り返ると、2016年はウィーンで国際女医会議、2017年は香港で西太平洋地域会議と2年続けて国際会議が開催されました。ウィーンを訪れたのは初めてで、街並み、美術館、音楽などといったヨーロッパならではの歴史を感じる事が出来ました。しかし、それよりも心に刻まれているのは、お元気だった山本纈子前会長とご一緒させていただいた最後の機会になった事です。香港は何度か訪れた事がありましたが、日本女医会のメンバーで2020オリンピック音頭を踊ったり、台風の直撃を受けたりと、やはり忘れられない経験となりました。来年は国際女医会100周年記念行事がニューヨークで開催されますので、多くの会員の先生に参加していただいて、沢山の思い出を作っていただきたいと思います。

## 十代の性の健康支援 ネットワーク事業委員会



宮崎千恵

日時 平成30年1月20日(土) 15:30~16:00

場所 アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区) 飛鳥の間

議題 1. 次年度の地域サポーターについて、以下を候補とすることとした。

岩手: 齋藤恵子

茨城: 和田由香

岐阜・名古屋: 宮崎千恵、齋藤洋子

岡山: 金重恵美子

2. 各地区協議会開催資金について

地域でのゆいネット講演会等の開催は市民公開講座・講演会として助成申請をする。

3. 報告会(講演会)

年1回の各地区協議会の報告会あるいは講演会を開催する。

4. 名称について

現在の名称は十代の性に限られることから、外部資金の獲得が困難であり、対象を拡大する必要性が生じている。今後名称変更を考えていく。

## 小児救急事業委員会



大谷智子

小児救急事業委員会で販売している「どうしよう子どもの救急」の日本語版冊子は、理事や支部の先生方の尽力で増版し購入いただいている状況です。残念ながら英語版の在庫がかなり残っております。外国人観光客や居住者も増えていることから、是非とも周知して頂き販売を拡大できればと思います。

また、小児科領域では虐待や貧困などの社会問題から、不登校、引きこもりや摂食障害など現代に増えつつある問題も注目されています。これらの疾患を様々な観点から理解し紹介できる冊子を作成することも今後の活動に加えていきたいと考えています。

## 男女共同参画事業委員会



前田佳子

男女共同参画事業委員会は毎年「医学を志す女性のための

キャリア・シンポジウム」を開催しております。第10回の2016年度のメインテーマは「変革は女性リーダーから」で、女性リーダーとして活躍している先生にご自身の経験と後輩への期待を語っていただきました。第11回の2017年度のメインテーマは「ポジティブ・アクションのススメ」とし、様々な大学で女性医師支援に取り組んでいる先生に、ポジティブ・アクションをふまえたご講演とディスカッションをしていただきました。いずれも素晴らしい内容であり、企画した側が多くを学ばせていただく結果となりました。

男女共同参画事業は日本女医会として継続していかなくてはならない事業の一つです。しかし男女共同参画というからには、女性だけではなく男性の参画が不可欠です。この2年間を振り返ると、残念ながらその点が果たせていなかったと反省しております。第12回にはこの反省点が活かせるような企画が練れば、更に充実した内容になると考えております。

## 長寿社会福祉委員会

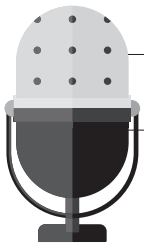


福下公子

平成28・29年度長寿社会福祉委員会のご報告をさせていただきます。委員会委員は、今村純子理事、岩崎恵美子理事、内潟安子理事、濱田啓子理事、福下の5人で構成されております。委員会では、少子高齢化が進む日本において、健やかな長寿を過ごすための啓発事業として市民公開講座を企画致しました。高齢者と感覚器機能に視点を置き、認知症の発症および進行との関与について市民の方々と共に考えてみました。28年度は視覚を取り上げ、「加齢と視覚-見える幸せ-」をテーマに、講師を東京女子医大眼科教授須藤史子先生と東京慈恵会医科大学眼科准教授(当時)中野匡先生にお願いを致しました。29年度は聴覚を取り上げ「健康寿命をのばすために」をテーマに、講師を慶應義塾大学耳鼻咽喉科教授小川郁先生と東京女子医大神経内科講師吉澤浩志先生にお願いを致しました。多くの参加者において頂き活発な講演会となりました。

なお、本講演会開催にあたり、28年度は(株)参天製薬、29年度は(株)大塚製薬、(株)エフピー、(株)熊谷組首都圏支店、(株)日清医療食品北関東支店、の各社からご協力を頂き、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

最後に、本委員会事業が、国民の福祉と健康に貢献できるよう発展することを祈っております。ご協力頂きました会員の皆様に心から感謝申し上げます。



## 第7回 提言論文

### それは本当に 女性医師だからの 問題なのでしょうか？

福井大学医学部附属病院呼吸器内科・医員  
門脇 麻衣子

私が医者として仕事を始めた今から20年ほど前は、女性医師への社会の印象はあまりよくなかった。特に田舎では男尊女卑の考えが根深く残っていた。診察室の外から、「男先生（おとこせんせい）をお願いします」と言う患者さんの声が聞こえたりした。

確かに、患者さんにとってその時代は、偉そうにしている先生が偉い先生であり、その偉い先生に叱られて、患者自身の生活習慣を見直し、また、病気になったのは自分が至らなかったからだ理解した。

しかし、社会の成熟とともに、医者－患者関係が変わってきた。私の勤務する田舎では、高齢化が急速に進んだ結果、患者の急速な増加、患者、医師側の専門医志向もあいまって、医師が不足した。患者さんは病院窓口で「専門の医者がないので診られません。」と説明され、患者側もえり好みしている場合ではなくなった。女性医師の割合も増え、それぞれの女性医師の確かな働きぶりによることも多いだろうが、女

性医師に対する患者さんの嫌悪感は少なくなった。患者さんの女性医師への信頼が高まると、職場内部にも変化をもたらし、「女医だから駄目だ」という上司、同僚からの根拠のない誹謗中傷は聞かれなくなった。

今の時代、医師という職業において、実臨床で男性医師に決して劣ることはないと考える。家事・育児の分担の偏り、サポートの有無、子供の障害、介護すべき家族の有無など、それぞれの家の事情で女性医師が、当直業務や、24時間365日の緊急の呼び出し・患者説明に対応できなくても、それはその個人の能力のなさではなく、女性医師だからという理由でもなく、それを受け入れられない危機管理意識のない職場・社会の問題である。職場・社会は、問題を女性医師の増加にすり替えていないか。

問題の本質を間違えると、正しい解決に至らない。働くのに制約のある女性医師は、遠慮して働き方をセーブし、その能力を十分発揮できない状況はなんともったいないことか。スーパー女性医師だけが働ける環境ではなく、普通の女性医師が無理せず普通に働ける環境にならないと、医師の過重労働問題は解決しないだろう。

女性医師側も、女性医師だから許されるだろうということ expecting してはいけない。働ける状況は個人個人によって違う。自分がどのような形なら最大限のパフォーマンスで働けるかを正しく認識し、職場・社会に話し合いをし、理解してもらうことが大切である。どこの職場でもそうだが、何でもかんでも面倒なことではできないと言っていたらそのうち足元をすくわれる。このことを肝に銘じ、人の嫌がる仕事も制約が許されるなら、積極的にやる姿勢をみせることである。

## 公益社団法人日本女医会 第63回定時総会のお知らせ

平成30年度の定時総会を、下記の要領で開催致します。ご多用かとは存じますが、ぜひご出席賜りますようお願い申し上げます。

なお、本年は総会前日の5月19日（土）に、東京都支部連合会主催のバスツアー（14時30分～17時30分）、懇親会（18時30分～21時）も開催されます。皆様ぜひご参加下さい。

**日時** 平成30年5月20日（日） 11時15分～14時15分  
**会場** 京王プラザホテル4階『錦』 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL 03-3344-0111  
**特別講演会** 女性医師支援公開講演会 14時30分～16時30分  
 第1部 『日本医師会の女性医師支援の取り組み』 日本医師会 常任理事 今村定臣先生  
 第2部 『女性医師の活躍は医療のかなめ』  
 九州大学大学院医学研究院 保健学部門 保健学部門長・教授 樗木晶子先生  
**共催** 公益社団法人 日本医師会  
 ※本講演会は日本医師会生涯教育制度カリキュラムコード0（その他）2単位に該当します。



公益社団法人日本女医会 第21回

# ブロック懇談会

庶務部 馬場安紀子

2018年2月18日 於：長崎県医師会館

平昌冬季五輪男子フィギュアスケートで日本選手が金、銀メダルを獲得した日、その歓喜に浮き立ちつつ、理事会を終えた私たちは長崎へと向かいました。折しも長崎は春節を祝うランタンフェスティバル開催中、街中に無数のランタンが赤く灯って私たちを出迎えてくれました。

翌早朝に会長の発案により、日本初の女医、楠本イネ氏のお墓を訪れました。お墓は、風頭山裾野の皓台寺から急坂を上った高台にあり、夫々に感慨深くお参りいたしました。

会場の長崎県医師会館は、原爆病院の近くです。出席者は、長崎県医師会長、演者4名、長崎県支部3名、ながさき女性医師の会7名、若手女医5名、日本女医会理事5名の計25名でした。初めに日本女医会の紹介、続いて長崎県での活動について講演されました。

長崎県の医療状況の問題点として、医師数の地域間格差が大きいことがあります。人口10万人対で最多の長崎市の3分の1という地域もあり、72有人島の医師確保も課題だとの事です。医師数が偏在する中、増加している女性医師の働きが医療体制の充実には欠かせませんが、農村部では医師の高齢化が著しく、女性医師支援は医師数の多い都市部での需要が殆どです。長崎県での女性医師支援対策事業は、長崎県、長崎県医師会、長崎大学が連携して手厚く行われており、保育サポート利用者のお話を伺うこともできました。

長崎大学での取り組みとして、メディカルワークライフバランス（WLB）センター及び医療教育開発センターの先生方のお話を伺いました。長崎大学の女性医師数は、大学医師の20%以上、研修医の約40%を占めるとのことで、男女を問わず全研修医のために、キャリア形成、保育、時短勤務、復職などに対する数々の手厚いサポート体制があります。特に印象的であったのは、県内の15病院に、WLB推進員を配置して、マッチングから復職相談までのサポートをしていることで、非常に恵まれた環境整備がなされていると感じました。

その後の討論では、病児保育の充実を望む声があった一方で、ベテラン女性医師から、恵まれ守られた環境に甘えすぎず医師としての使命感を持って医療に貢献してほしいという願いも聞かれました。

最後に、本会開催に多大のご尽力をされ、滞在時間の短い私たちのために長崎らしい昼食を準備されてお心遣いくださった長崎支部長の黒崎伸子先生に、この場を借りて心より深謝申し上げます。

## プログラム

1. 開会の挨拶
  - 会長 前田佳子
  - 長崎支部長 黒崎伸子
  - 長崎県医師会長 蒔本恭先生
2. 日本女医会の紹介
  - 司会 馬場安紀子
  - 1) 日本女医会の歴史と活動 前田佳子
  - 2) 日本女医会の事業紹介 副会長 大谷智子
  - 3) ナショナルコーディネータ報告 前田佳子
3. 長崎県での女性医師支援活動の紹介 司会 黒崎伸子
  - 1) 長崎県医師会の取り組み
    - 長崎県医師会常任理事 瀬戸牧子先生
  - 2) 長崎県の取り組み
    - 長崎県医療人材対策室長 太田勝也様
  - 3) 長崎大学病院の取り組み
    - ①長崎大学メディカルワークライフバランスセンター 南 貴子先生
    - ②長崎大学医学部医療教育開発センター 松島加代子先生
4. 総合討論 司会 大谷智子・黒崎伸子
  - ・これまでの女性医師支援の成果は？
  - ・これまでの女性医師支援がもたらした現状と課題は？
  - ・女性医師支援の方向転換が必要か？
5. 閉会のことば 大谷智子

<総合司会 馬場安紀子>




 委員会  
報告

## 長寿社会福祉委員会 市民公開講座 健康寿命を のばすために

『健康寿命をのばすために』テーマに、お二人の講演者を迎え、3月18日(日)(午後2時～)、アルカディア市ヶ谷(東京市ヶ谷)にて開催しました。参加者は49名でした。

近年の高齢化社会において健やかに老いることは、健康寿命をのばすことであり、近年、認知症の発症と進行に感覚器が重要な要素となっていることが知られてきています。今回はお二人の先生にそれぞれの専門分野のお立場から高齢者の健康的な生活維持のためのご講演を頂きました。会場はほぼ満席で、講演後の質問も多く、市民の関心の高さがうかがえました。なお、講演の要旨を以下に記します。(福下公子)

### 講演1 「認知症の早期発見と進行予防」

吉澤浩志先生(東京女子医科大学神経内科講師)

認知症が現在(軽度認知症も含む)800万人を超えつつある現状で、認知症について知っておきたい基礎知識が提示されました。脳の働きを4つに分けて、前頭葉・側頭葉・後頭葉・頭頂葉の各々の働きについてご説明があり、そして正常老化による、もの忘れと認知症についての違いについて述べられました。

正常老化(出来事の一部を忘れる・ヒントにより思い出す・社会生活に支障なし・1、2年間は変化なし・他の症状は目立たない)と認知症(行為そのものを忘れる・ヒントによっても思い出せない・社会生活に支障あり・最近1、2年間で変化・見当識障害、判断力低下、失算失書など他の症状も合併)正常老化と認知症をきちんと区別することは大切とのことでありました。

そして認知症は大きく①アルツハイマー型認知症(もの忘れ型)②血管性認知症(まだら認知症型)③レビー小体型認知症(注意力・視覚障害型)④前頭側頭型認知症(社会性欠如型)の4つの型があり、型により対処方法が違いかつこれにより治療方法が変わるといことがあります。

いずれにしても認知症に対して私達ができることは危険因子を減らし、防御因子を増やすことが大切であると結ばれました。

開発中の抗認知症薬も多く、ワクチンも臨床治療されつつある今日、希望をもって日々歩みたい。(濱田啓子)

### 講演2 「高齢者の難聴と向き合う」

小川郁先生(慶應義塾大学耳鼻咽喉科教授)

総論では聴覚という感覚の役割につき、聴覚→言語→思考・情動そしてコミュニケーションと繋がっていき、聴覚障害はそれらをも障害することになります。

次に聴覚路の解剖、難聴を来す疾患、さらに先天性の聴覚障害児に人工内耳は福音となっているなど、難聴をきたす疾患へのアップデートな研究・治療法の紹介がございました。

本題の高齢者における加齢性難聴については、発症に至る原因は、難聴遺伝子が発見されてきたこと、そのほかの危険因子は喫煙、肥満、その結果としての高血圧、糖尿病、脂質代謝異常を挙げておられました。そしてアンチエイジングが加齢性難聴を予防する、その柱はカロリー制限と運動とのお話でした。不幸にして難聴が発症した場合は早期からの補聴器装着が推奨されるが、現状はいくつかの問題から補聴器の装用は遅れがちであること。しかし難聴から認知機能が低下しうつ病を発症する、難聴者の早期の補聴器装着は認知症の予防となりうるなどの研究結果が得られ、平成30年4月から、補聴器相談医に「補聴器適合に関する診療情報提供書」を書いていただくことで補聴器購入は医療費控除の対象になるとのことでありました。以上が講演の要旨であります。

(今村純子)


 委員会  
報告

## 十代の性の健康支援ネットワーク 事業委員会 宮崎千恵 講演会

## 若い女性の 心と体のケアを考える

1月20日(土) 13:00～15:30、アルカディア市ヶ谷にて(参加者22名)、2つの講演を行った。

### 講演1「女性アスリートの身体と心のケア」

ゆいネット委員長・日本女医会理事 宮崎千恵

(座長 ゆいネット委員 泉 美貴理事)

米国医学会が、1997年に女性アスリートの三主徴として定義したエネルギー不足・無月経・骨粗鬆症について判りやすく解説され、若い女性の過度のダイエット、ハードなスポーツ、ストレスが将来の健康(妊孕性を含む)に悪影響を及ぼすと警鐘を鳴らされた。

### 講演2「性犯罪被害にあうということ」

講師 性犯罪被害者支援活動「みかつき」小林美佳氏

(座長 ゆいネット委員・日本女医会監事 津田喬子)

講師の小林美佳さんが、自身で性犯罪被害に遭遇した時の状況を淡々と話されたが、その内容は、体験者にしか語りえない赤裸々な内容に、会場では、涙する参加者も多かった。「性犯罪被害者の感情は当事者にしかわからないことであるが、被害そのもののみならず、その事後の周囲の対応の仕方が、更に被害者の傷を深めることに充分留意した対応が必要である、周囲の方は構えることなく、飾らずに、言葉をかけて接していただきたい、一緒に向かう支援をお願いしたい」と言った内容でした。

# 国際女医会通信 14

The Letter from  
Medical Women's International Association (MWIA)



## CSW62 参加の手引き～ part 1

MWIA とは直接関係はありませんが、日本では耳慣れない方も多いと思いますので、今回参加した CSW について 2 回に分けてお知らせいたします。Part 1 として CSW の基礎知識から始めたいと思います。



### CSW とは

Commission on the Status of Women の略で、国連女性の地位委員会の事です。政治・経済・社会・教育分野などにおける女性の地位向上に関して国連経済社会理事会 (ECOSOC) に勧告・報告・提案などを行う委員会です。1946年に発足し、現在のメンバー国は 45 カ国で任期は 4 年、日本は 1957 年から参加しています。事務局は UN Women で、毎年 3 月にニューヨークの国連本部で 2 週間にわたって開催されます。CSW62 の会期は 3/12～23 です。

CSW で議論される内容は、1955 年の第 4 回世界女性会議で採択された北京行動綱領 (要点や指針をまとめたもの) と 2000 年に開催された第 23 回国連特別総会の実施・進捗・課題など、ジェンダー平等と女性のエンパワーメント (力をつけること。また、女性が力をつけ、連帯して行動することによって自分たちの置かれた不利な状況を変えていこうとする考え方) に関わる内容です。今年開催の CSW62 は優先テーマ「農山漁村女性と女兒のジェンダー平等とエンパワーメントを達成する際の課題と機会」、レビューテーマ (見直しテーマ) は CSW47 で合意・結論を得た「メディア・情報・コミュニケーション技術への女性の参加とアクセスおよび女性の地位向上とエンパワーメントのための活用とインパクト」でした。日本語にしても分かりにくいですよ。2 週間かけて優先テーマを議論して合意結論として全会一致で採択し、見直しテーマは実施されているかについて検証します。これらは最終的には 2030 SDGs, Leaving no one behind に統合されて行きます。



### CSW に参加するには

政府代表または NGO 代表に入らなくてはなりません。これまでの経緯で CSW の日本代表は民間 (NGO) 出身者が務め、その他は政府関係者で構成されています。今年の代表は城西国際大学招聘教授の田中由美子さんです。となると一般人が参加するためには、国連の協議的地位が認められてい

る NGO に加盟する必要があります。日本で認められている NGO は国連 NGO 国内女性委員会 (The National Women's Committee of the United Nations NGOs)、国際婦人年連絡会 (International Women's Year Liaison Group: IWYLG)、日本女性監視機構 (Japan Women's Watch: JAWW) の 3 団体です。その他世界で活動している NGO に加盟していても参加のチャンスはあります。NGO の 1 団体に認められている参加者は 20 人で、CSW62 では世界各国から約 6,000 人が登録しているそうです。今回私は日本女医会が加盟している「国際婦人年連絡会」から推薦していただきました。参加者はまず各自で CSW への参加登録をし、CSW から推薦団体に連絡が来て、所属している NGO から承認してもらいます。承認されると CSW から参加登録証がメールで届きます。これを印刷して持参し、現地の事務所に行って ID カードを作ってもらいます。ID カードがあっても国連内に入るときは毎回セキュリティチェックを受けなくてはなりません。



### CSW 開催期間に行われるイベント

国連内で開催される政府間会議以外に、サイドイベントとパラレルイベントが開催されます。サイドイベントは NGO と政府の共催で国連内で開催されます。パラレルイベントは NGO のみで国連の外、周辺の施設で開催されます。日本の NGO も毎年サイドイベントを開催しています。



### CSW 参加までの準備

日本においては毎年 JAWW が参加者のために直前勉強会を開催しています。初めて参加する方は是非出席することをお勧めいたします。NY では CSW が始まる前日に NGO CSW/NY の主催で Consultation Day が開催されます。参加費は \$100 といいお値段ですが、ちょっとしたエンターテイメントもあり楽しめます。また初日の 8:30 から、やはり NGO CSW/NY 主催でパラレルイベントとして Orientation Session があり、CSW の歴史から交通手段までエッセンスを伝授してくれます。

Part 1 はここまで。次回はもっと詳しく CSW62 についてお届けいたします。お楽しみに。

(文責：前田佳子)



# J M W A A R C H I V E S

## 「高橋瑞子女史訪問記」

日本女医会  
アーカイブ

#004

日本女医会雑誌 第2号 大正3年3月



「荻野（吟子）さんが日本の女医の生みの親だとすれば、育ての親に当たるのが3番目に女医になった高橋瑞子さんであります」と吉岡彌生が語っていた高橋瑞子（写真）は、

1852（嘉永5）年、三河の西尾藩士の末っ子として生まれました。10歳で両親と死別、その後25歳で結婚、離婚を経て1882（明治15）年、30歳にして産婆の資格を獲得。多くの困難を乗り越えて1887（明治20）年に医師免許を取得しています。

日本女医会雑誌 第2号には『高橋瑞子女子探訪記』として、当時日本橋区元大工町（現在の中央区八重洲1丁目付近）に開業していた高橋瑞子のインタビューが掲載されています。

### 『高橋瑞子女子探訪記』

「私の勉学時代は随分惨めなものでした。何しろ素寒貧の上に学費と云っては親からも誰れからも何一つ補助を受けませんでしたからね。とても今の方には御想像がつかますまい、ですから学校へだって金の有る間だけ通つて、其の内に一月もすると金がなくなるから止めて、又金を蓄めて行くといふ風で、満足に行く事は出来ませんでした。医師になりたいとは予ての願でありましたので、忘れもしない明治十六年の三月でした。長井せい、岡田光、と私の三人で、時の衛生局長長興専齋氏に女医を許可して呉れる様に再三頼みましたが中々聞入れられません。外からも頼んで来てゐるがまだ時期が到らぬから今少し待つて呉れ、産婆開業の方は許されてあるから産婆の方をやつて呉れとばかりで一向はかゝり行きません（産婆の免状は已でに十五年の三月に貰つてあるのです）。止むなく前橋市へ参りまして産婆を開いて居りました。あちらにはまだ本当の免許を得た産婆はありませんでしたから、彼地に居る間には随分土地の為に尽しました。有力家を説いて産婆学校を設け、産婆の地位、学力を宥める事等も計りました。斯うして居る中に十七年の八月か九月に女医を許すと云ふ事が東京から伝はりましたので、早速上京しましたがまだ肝心の学校が無いのです、これでは仕様がありません長谷川さんに直接談判し様と決心して、済生

学舎の門の前に毎日頑張つておりましたが、生憎なもので中々出くはさないんです。やうやうの事で逢はれましたから懇々と譯を話して頼みました処、兎に角女医が許されたのに学校が無いとは不都合であると思ふが、自分の一見にも行かぬから教授連と相談の上で返事をしやうとの事で、愈々入学が許されたのは同年の十二月でありました。其時分女性とは私一人だつたので、他の学生から随分馬鹿にされましたつけ。教室へ這入ると足拍子をしたり、ボードへ悪口を書いたりしたものです。」

無事に前期試験に合格した瑞子でしたが、後期試験の实地研修のために志望した順天堂病院への入学も困難な道でした。

「それには順天堂病院が最相当と思ひまして、入学を願ひましたのに同じく女子は入学させぬと云ふ事で再三参りましたが、許可されませぬ、そこで私の下宿の隣に居た佐藤進先生の甥某と云ふ人が見兼ねて、先生に話して呉れましたので漸く這入ることが出来たので、月謝は免除して貰ひましたが、規則として、束脩の五圓丈は納めなければなりませんでしたが、其の五圓すら無いので、どうせ夜分本当に寝た事はないのですから、夜具を売つて其金を調達しました。然し其五圓は程なく返して下さいましたから、それでやつとステスコープ等を買ふことが出来たのです。」

後期試験に合格するまでの2年間を瑞子はこう振り返っています。

「此の満二年間と云ふもの、夜分本当に寝床を敷いたことはありません位でした。殆、寝る暇が無かつたのです。学校は六時に始まりますから四時半頃から書物を首に背負つて出てく出掛けますと、まだ暗いし妙な風体をしてゐるものですからよく巡査に咎められましたよ、ハハハハ。それで夕方は七時頃帰つて、復習を済まして、十二時時分から又内職に取掛りました。だから寝る暇なんか殆どありません。」

そしてついに1887（明治20）年に産科・婦人科病院を開業しましたが、男性医師に伍すためには更なる勉強が必要とドイツ、ベルリンへと旅立ちます。

「あちらへ着いてからの苦労は、とても御話になりません。

伯林の大学では自分の国の婦人でさへ、入学をまだ許しませんでしたから、とても入れて呉れません、教授に直接逢つて事情を話したくても言葉が通ぜず、丁度私の下宿の前は婦人科の病室で、毎日それを眺めながら、あの中に入れて貰へないと思ふと口惜しくて、一層の事あの病室の前で首を吊つてやらう、さうすれば自分一人犠牲に為つてあとの人々の為に途が拓けると實際覚悟した事もありました。」

帰国後の瑞子は大いに脚光を浴び、病院も繁盛しましたが、1914（大正3）年、62歳で老齢を理由に医業からの引退を決めています。

### 『高橋瑞子女史の引退』

（日本女医会雑誌 第4号 大正3年10月10日刊）

「明治十九年医術開業試験に及第せられ同廿年御開業翌年卒先して獨乙伯林に遊学なさいまして研学される事二ヶ年で御帰朝、夫より引つゞき現在の場所で診療に従事せられて名声日と共に高く業務は年を追ふて

御盛でありました女医会の元老高橋瑞女史は老齢の為大切な人命を預るに萬一間違があつてはならぬと昨年限り断然斯界から引退せられまして悠々風月を友として余生を送られる事となりました。（中略）女史の履歴は立派な一遍の立志談で吾々後進者を益する事少なくないと信じます私共は女医会の偉人なる女史を永く忘れてはならないと思ひます。」

その後瑞子は、16年間を悠々自適に過ごし、1927（昭和2）年に76歳で没しています。（文中敬称略・文責 広報部）



高橋瑞子記念碑除幕式（1933年10月、世田谷区・豪徳寺にて）


## 安全に、快適に、健やかに暮らす。



（株）ヨコヤマは住宅設備機器の総合商社として、半世紀以上にわたり、心地よい生活空間づくりを通じて社会に貢献する役割を担ってきました。

豊かな暮らしのために。その想いはこれからも変わることはありません。

時代のニーズにお応えし、暮らしを彩る価値ある商品を、私たちは提案し続けていきます。

 株式会社 **ヨコヤマ**

〒142-0051

東京都品川区平塚1-7-7 MYビル

TEL 03(5702)4351(代)

公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))

平成29年度第5回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 平成29年11月18日(土)  
午後3時00分～午後5時00分
2. 場所 日本女医会 会議室
3. 出欠席者
  - 1) 出席者  
理事 前田佳子 諏訪美智子  
磯貝晶子 澤口聡子  
中田恵久子 花岡和賀子  
馬場安紀子 濱田啓子  
監事 塚田篤子
  - 2) 欠席者  
理事 大谷智子 赤澤純代  
泉 美貴 今村純子  
岩崎恵美子 内潟安子  
小泉ひろみ 鈴木カツ子  
福下公子 宮崎千恵  
監事 津田喬子

※本会は、11月18日の出席者が半数に満たなかったため、議題に沿って話し合いを行い、欠席理事は後日メールで採決を行った。

2. 継続審議事項

1. 第63回定時総会について (継続)
  - ・馬場理事より、東京都支部連合会主催による懇親会は総会前日の5月19日(土)に決定した旨報告があった。また、エクスカッションについても開催する予定であるとの報告があった。
2. 功労会員推薦規程について (継続)
  - ・前田会長より、役員経験者等の同会に功労のあった会員に対する表彰等を行うことが提案され、話し合いが行われ、1月以降の理事会において規程を検討することとなった。
3. 倫理委員会の設置について (継続)
  - ・澤口理事より、国際女医会にCOI掲載の規程がないため、前田会長からその旨を国際女医会に伝えるよう要請があった。
4. 女性医師の勤務に関する全国アンケート企画 (承認)
  - ・前田会長より、会員宛てに勤務の状況などに関するアンケート調査を行うことが提案され、内容も含め承認された。(12月中に発送) また、併せ

て国際女医会で実施しているセクシャル・ハラスメントに関する調査への協力の一環として、質問事項の日本語訳を同封することが承認された。

5. 役員選挙について

- ・平成30年度の役員選挙の日程について (承認)  
大谷副会長より、資料に基づき平成30年度役員選挙の日程の確認が行われ、併せてその通知を各支部長宛に送付することが承認された。
- ・選挙管理委員について (承認)  
前田会長より、今回の選挙における選挙管理委員長には山上実千子先生(江戸川支部)に打診することが報告された。

3. 審議事項

1. 第7回提言論文募集のテーマについて (継続)
  - 案1 「女性医師への社会の理解」
  - 案2 「他職種連携」
  - 案3 「女性医師と男性医師」
 以上の3案を事業部内でメールで検討後、報告することとなった。
2. 平成29年9月、10月会計報告承認 (承認)
 

平成29年9月、及び10月の会計報告が承認された。
3. 平成29年度第4回(9月)理事会議事録承認 (承認)
 

平成29年度第4回理事会議事録(案)について、福下理事より以下の訂正が示された。

長寿社会福祉委員会報告  
平成29年度講演会  
平成30年3月18日(日)  
アルカディア市ヶ谷 14:00～16:00  
対象：一般市民  
テーマ：高齢者のQOL  
講師：  
1) 高齢者のQOL維持のための生活習慣(仮題) 吉澤浩志先生(東京女子医科大学神経内科講師)  
2) 高齢者の難聴と向き合う(仮題) 小川郁先生(慶應義塾大学耳鼻咽喉科教授)
4. その他
  - ・災害復興まちづくり支援機構への団体加盟(賛助会員)について (承認)  
前田会長より、『災害復興まちづくり支援機構』についての説明があり、同団体へ賛助会員として団体加盟することが

提案され、検討の結果承認された。なお、本件については、福下理事よりメールにて疑義を呈する意見が述べられた。

澤口理事より、たんの吸引事業に関する追加分析の論文文化について、第一申請書作成者として大坪公子先生(世田谷支部)を加えることが報告され、承認された。

公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))  
平成29年度第6回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 平成30年1月21日(日)  
午後2時00分～午後4時00分
2. 場所 京王プラザホテル『御岳』
3. 出欠席者
  - 1) 出席者  
理事 前田佳子 大谷智子  
諏訪美智子 赤澤純代  
泉 美貴 磯貝晶子  
今村純子 岩崎恵美子  
小泉ひろみ 澤口聡子  
鈴木カツ子 中田恵久子  
花岡和賀子 馬場安紀子  
濱田啓子 福下公子  
監事 塚田篤子 津田喬子
  - 2) 欠席者  
理事 内潟安子 宮崎千恵

2. 継続審議事項

1. 第63回定時総会について (承認)
  - ・総会のタイムテーブル：会長・副会長選挙中を会場で昼食とする
  - ・役員宿泊は7名
2. 功労会員推薦規程について (承認)
 

功労会員制度については次回以降の議題とする。
3. 倫理委員会の設置について (承認)
 

倫理委員会の設置については、現在規程を作成中のため次回以降の議題とする。

3. 審議事項

1. 平成30年度事業計画案、及び予算案について (承認)
  - ・次年度の各事業内、及び予算について検討し、次回理事会において最終的な予算案を決定することとなった。
2. 平成29年11月、12月会計報告承認 (会計部) (承認)

平成29年11月、及び12月の会計報告が承認された。

3. 平成29年度第4回(9月)理事会議事録承認 (庶務部)(承認)

平成29年度第4回理事会の議事録が承認された。

4. その他

4. 報告事項

1. 各部、NC報告

1) 庶務部報告

- ・新入会員3名が承認された。
- ・馬場理事より、ブロック懇談会(2/18)について、説明があった。
- ・平成29年度の吉岡彌生賞応募状況について報告があった。

2) 広報部報告

- ・花岡理事より、会誌232号とHPリニューアルの進捗についての報告があった。

3) 会計部報告

- ・諏訪副会長より寄附金の寄附状況について報告があった。
- ・諏訪副会長より2年以上の会費未納会員への回収状況について報告があった。

4) 渉外部報告

- ・諏訪理事より12月21日 国際婦人年連絡会 国際・開発委員会に出席した旨の報告があった。

5) 学術部報告

- ・磯貝理事より第38回学術研究助成、及び溝口昌子賞の応募状況について報告があった。
- ・磯貝理事より山本繡子賞規程案が示され、次回理事会での審議事項とする旨の報告があった。

6) 事業部報告

- ・澤口理事より平成29年度の荻野吟子賞応募状況についての報告があった。

7) ナショナルコーディネータ報告

- ・前田会長より、news letterの解説とともに、セクシャルハラスメントに関するアンケートについての報告があった。
- ・西太平洋地域の役員会が3月末にフィリピンで開催される旨報告があった。

2. 各委員会報告

1) 男女共同参画事業委員会

- ・平成30年度講演会開催日程について検討した結果 10/6(土)を予定

日とした。

2) 長寿社会福祉委員会

- ・福下理事より3/18に開催する平成29年度講演会についての報告があった。今年度は聴覚をテーマに開催の予定。

3) 小児救急事業委員会

- ・大谷副会長より『どうしよう…子どもの救急』の販売状況について報告があった。

4) 十代の性の健康支援ネットワーク事業委員会 (泉理事)

- ・津田監事より平成29年度講演会(1/20)について報告があった。

3. 対外的団体活動

1) 国際婦人年連絡会 常任委員会について

- ・前田会長より国際婦人年連絡会常任委員会出席の報告があった。

2) 災害復興まちづくり支援機構 定時総会懇親会について

- ・前田会長より災害復興まちづくり支援機構への加盟が2017年12/1の定時総会に於いて承認された旨報告があった。

3) 公益財団法人 日中医学協会 忘年会について

- ・前田会長より日中医学協会忘年会に参加した旨報告があった。

4) 第一回日本産前産後ケア・子育て支援学会について

- ・前田会長より第1回日本産前産後ケア・子育て支援学会への参加の呼びかけがあった。

4. その他

1) 平成30年度役員選挙について

- ・前田会長より、今回の選挙の選挙管理委員が報告された。
- ・大谷副会長より、今回の選挙の告示が提示され簡単な内容の説明があった。

2) 西予市おいね賞事業について

- ・前田会長より、西予市おいね賞授賞式に磯貝理事とともに出席した旨報告があった。

3) 東京都支部連合会総会、新年会について

- ・前田会長より東京都支部連合会の総会、並びに新年会に参加した旨報告があった。

4) 日本女医会アンケート回収状況について

- ・前田会長よりアンケートの回収状況について説明があった。

5) 青山宮野ビル管理組合、及び老朽化問題について

- ・事務局より青山宮野ビルの老朽化問題と、管理組合での問題について報告があった。

6) 馬場理事より、来年度の軽井沢セミナーについて参加の呼びかけがあった。

以上

公益社団法人日本女医会

((理事会議事録))

平成29年度第7回理事会議事録

1. 日時・場所

- 1. 日時 平成30年2月17日(土) 午後3時00分~午後5時00分

- 2. 場所 日本女医会 会議室

3. 出欠席者

1) 出席者

- 理事 前田佳子 大谷智子  
諏訪美智子 赤澤純代  
泉 美貴 磯貝晶子  
今村純子 小泉ひろみ  
澤口聡子 鈴木カツ子  
花岡和賀子 馬場安紀子

- 監事 塚田篤子 津田喬子

2) 欠席者

- 理事 岩崎恵美子 内潟安子  
中田恵久子 濱田啓子  
福下公子 宮崎千恵

2. 継続審議事項

1. 第63回定時総会について (継続)

- ・当日のタイムスケジュールについては次回理事会において決定する。
- ・総会後の講演会についても次回理事会において検討する。

2. 功労会員推薦規程について (継続)

- ・功労会員(現段階での有資格者は12名)のほか、永年会員制度の策定も検討し(75歳以上で会員歴30年以上の会費完納者)、第63回定時総会にて表彰する。
- ・90歳以上の会員の会費免除については要検討とする。

3. 倫理委員会の設置について (継続)

- ・資料に基づき次回の理事会で検討する。

4. 平成30年度事業計画、予算案(含資金調達及び設備投資の見込み)の件 (承認)

- ・事業計画のうち以下の2項目を修正の上承認

障害 → 障害に変更

「公衆衛生の向上に寄与するため」  
を削除

- ・平成30年度予算案（含資金調達及び設備投資の見込み）が承認された

### 3. 審議事項

1. 山本織子賞規程について (承認)
  - ・申し込み期間 毎年4月1日～同年の12月25日
  - ・海外での学会発表を対象とし、年2名以内 1人10万円まで
  - ・上記を盛り込むことを決定し、次回理事会にて報告することとなった。
2. 平成30年度理事会開催日程について (継続)
  - ・次年度の理事会開催日を削減するか否かが検討され、次回以降に日程を決定することとなった。
3. 平成30年1月会計報告承認 (承認)
 

平成30年1月の会計報告が承認された。
4. 平成29年度第6回（1月）理事会議事録承認 (承認)
 

平成29年度第6回理事会議事録が承認された。
5. 日本女性会議2018への協賛金について (承認)
 

5万円の負担金を支出することが承認された。

### 4. 報告事項

1. 各部、NC報告
  - 1) 庶務部報告
    - ・今村理事より新入会員3名が報告され、入会が承認された
    - ・馬場理事、今村理事より長崎でのブロック懇談会（2/18）を開催する旨報告があった。
  - 2) 広報部報告
    - ・花岡理事より会誌232号、及びHPリニューアルの進捗について報告があった。
  - 3) 会計部報告
    - ・諏訪副会長より寄附金の報告があった
    - ・諏訪副会長より2年、及び3年会費未納会員への回収についての報告があった。
  - 4) ナショナルコーディネータ報告
    - ・前田副会長より国際女医会のnews letterについての報告があった。
2. 各委員会報告
  - 1) 男女共同参画事業委員会
  - 2) 長寿社会福祉委員会
  - 3) 小児救急事業委員会
 

大谷副会長より『どうしよう…子どもの救急』の販売状況について報告があった。
  - 4) 十代の性の健康支援ネットワーク事

業委員会

泉理事より、平成29年度ゆいネット講演会（1/21）およびその後に開催された委員会についての報告があった。

### 3. 対外的団体活動

- 1) 前田会長より国際婦人年連絡会の環境委員会出席に出席した旨報告があった。
  - 2) 前田会長より3.11甲状腺がん子ども基金主催「手のひら食堂」に参加した旨報告があった。
- ### 4. その他
- 1) 平成30年度役員選挙について  
事務局より、平成30年度役員選挙の進捗について報告があった。
  - 2) 前田会長より、東京都支部連合会が行う東京マラソン（2/25）でのボランティアについて報告があり、参加の呼びかけがあった。
  - 3) 事務局より、青山宮野ビル管理組合、及び老朽化問題について報告があった。

以上

## 厚生労働省より 平成30年度「児童福祉週間」のお知らせ

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年5月5日の「こどもの日」から一週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業及び行事を行っています。

平成30年度標語 「あと一步 力になるよ その思い」(伊藤里空乃さん 8歳 千葉県)

### 「児童福祉週間」の概要

**期間** 平成30年5月5日（土）～ 5月11日（金）の一週間

**主催者** 厚生労働省、(公財) 児童育成協会、(社福) 全国社会福祉協議会

#### 主な取り組み

- 1) 児童福祉の理念の普及
- 2) 家庭における親子のふれあい促進
- 3) 時行における児童健全育成活動の促進
- 4) 児童虐待への適切な対応
- 5) 母と子の健康づくりの推進
- 6) 多様化する保育需要等への対応
- 7) 障害のある子ども等に対する理解の促進



## 第39回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成24年4月に公益社団法人に移行いたしましたので、第33回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。また、平成28年度からは、山崎倫子氏のご遺志により寄附された基金1,000万円から、若手医師の研究助成を行う「山崎倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された1名に山崎倫子賞を授与いたしております。

### 記

- 1. 助成の趣旨：**後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
- 2. 助成金額：**1件30万円まで、採択件数は3件以内。うち優秀と判断された1件に山崎倫子賞として、50万円を助成する。
- 3. 申し込み手続き：**
  - 1) 応募資格**
    - ①申請締切時において満45歳未満の日本国内在住の女性医師。
    - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
    - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求められることがある。
  - 2) 助成期間** 原則1年間。同一人が重ねて申請をする場合は5年以上の間隔をおくこと。
  - 3) 応募方法** 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/joseikin.html>) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社)日本女医会 office@jmwa.or.jp
  - 4) 申込期限** 平成30年12月25日必着。
  - 5) 選考及び発表方法** 選考委員会において選考の上、日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
  - 6) 助成金の贈呈** 平成31年5月19日開催の第64回日本女医会定時総会(北海道・札幌市にて開催予定)の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること。
  - 7) 被授与者の本会に対する報告**
    - ①平成32年9月10日までに研究経過報告書(日本女医会誌掲載用)と収支報告書を提出。また、ホームページ「学術研究助成受賞者の軌跡」欄 (<http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html>) にも寄稿することを承諾する。
    - ②被授与者は、本助成金授与後3年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の別刷10部を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
  - 8) 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

## 第4回 公益社団法人日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞

平成25年に逝去された故溝口昌子先生の御遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。希望者は、下記募集要領にしたがって当会宛てにご申請下さいますようお願い申し上げます。

### 記

- 1. 助成の趣旨：**女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。
- 2. 助成金額：**1件30万円とし、原則毎年1名に授与する。
- 3. 応募資格：**申請時に満55歳未満で、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国内在住の女性医師(教授は除く)。
- 4. 提出書類：**1) 所定の様式の履歴書、推薦状 2) 研究に関する自著を含む共著論文 2編 3) 公益社団法人日本女医会会員(選考委員を除く)2名の推薦状 4) 誓約書 5) 業績目録 以上の書類を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
- 5. 申込期限：**平成30年12月25日(当日消印有効)
- 6. 表彰：**平成31年5月19日開催の第64回日本女医会定時総会(北海道・札幌市にて開催予定)において行う。
- 7. 問い合わせ先：**公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)

## 日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集致しますので、募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申し上げます。

### 募集要項

1. 対象 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡彌生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
2. 候補者の推薦 日本女医会員による推薦が必要である。
3. 提出書類 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
4. 申込期限 平成30年12月25日（当日消印有効）
5. 表彰 平成31年5月19日開催の第64回日本女医会定時総会（北海道・札幌市にて開催予定）において行い、賞状、記念メダルおよび副賞を授与する。副賞は5万円とする。
6. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：事業部）

## 日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

1. 対象 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各1名に授与する。  
1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
2. 候補者の推薦 日本女医会員2名以上の推薦が必要である。
3. 応募方法 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局まで簡易書留にて郵送する。  
**業績目録** 1) 「医学に貢献した女性医師」に応募の方 ●査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者3編以上を含む5編の全文 ●上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者7編以上を含む10編の論文名、著者名と抄録 2) 「社会に貢献した女性医師」に応募の方 ●国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書 1) 2) に共通の業績 ●国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等 ●国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
4. 申込期限 平成30年12月25日（当日消印有効）
5. 選考及び発表 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
6. 表彰 平成31年5月19日開催の第64回日本女医会定時総会（北海道・札幌市にて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞を授与する。
7. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：庶務部）

## 平成30年度 山本續子賞のご案内

平成29年に逝去された山本續子前会長のご遺志により寄附された基金を元に設立された山本續子賞の募集を本年度より開始致します。この賞は、若手女性医師の海外におけるグローバルに活躍する女性医師をサポートする助成制度です。希望者は下記の要項にしたがってご応募下さい。

- 1. 対象：**申請時に満45歳未満で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、海外学会報告などの学術活動を行っている、またはこれから行う予定の日本国内に在住している女性医師（教授は除く）。臨床・基礎医学の別は問わない。
- 2. 助成金額：**原則 一人あたり10万円
- 3. 申し込み手続き：**
  - 1) 下記の書類を揃えて公益社団法人日本女医会事務局まで郵送
    - ・申請書と履歴書 (<http://www.jmwa.or.jp/yamamoto/yamamot.php>) より所定の用紙をダウンロードして作成して下さい)
    - ・学会の抄録
    - ・研究に関する自著を含む共著論文2編
    - ・日本女医会会員（選考委員を除く）2名の推薦状
    - ・提出書類に関する誓約書
    - ・業績目録
  - 2) 受付期間 平成30年4月1日～12月25日
- 4. 授与：**平成31年5月19日開催の第64回定時総会（札幌市にて開催予定）にて行う。
- 5. 問い合わせ先**  
公益社団法人日本女医会事務局（担当：学術部）

## 寄附者一覧

（平成30年1月1日～3月末現在・敬称略）

大塚製薬 株式会社	岩崎恵美子（宮城）
株式会社 熊谷組 首都圏支店	鈴木カツ子（宮城）
日清医療食品 株式会社	今村純子（群馬）
北関東支店	磯貝晶子（神奈川）
濱田啓子（北海道）	澤口聡子（港）
小泉ひろみ（秋田）	福下公子（世田谷）

## 編集 後記

記録的な寒さや暖かさなど、気温の変動が大きかった冬がやっと過ぎて、例年より早い桜が咲き、麗らかな春がやって来しました。天候にも恵まれて都内桜の名所は大混雑です。

山本前会長からバトンタッチした前田新会長のもとで日本女医会役員会が活動を始めて約1年が経ちました。日本各地で活躍しているメンバーや多くの皆様からご意見や情報を頂き、女医会員としてより深く強い絆を築いて女性医師の働きやすい環境作りなどの活動や社会貢献もしていきたいと頑張っています。

平成30年度は役員改選の年にあたります。役員は特定の地域に偏在しないように、また会員数に比例した役員数を選出する様に大谷副会長を中心とした委員会選挙法が改正され、新しい選挙制度がスタートしました。

5月に京王プラザで総会が開催されます 会員の皆様のご出席をお待ちしております。（花岡和賀子）

## HP リニューアルのお知らせ

日本女医会のホームページが新しくなりました！情報を整理してより分かりやすいサイトになりましたので、ぜひご覧ください。スマートフォンにも対応しております。（広報部）

URL：<http://www.jmwa.or.jp/>



## 会員動静

（平成30年3月末現在・敬称略）

	氏名	支部	卒年
入会	永石 歆和	北海道	平成9
	塚本佐知子	江戸川	平成2
	吉永 淑子	江戸川	昭和58
	角田 由理	葛飾	昭和61
	池森 敦子	神奈川	平成7
	下村千枝子	長崎	昭和52
	松島加代子	長崎	平成15
物故	犬竹 喜世	埼玉	昭和39
	鈴木志賀子	足立	昭和23
	木内 晶子	港	昭和47
	牧野 アツ	都下東	昭和19
退会	木佐森可也子 都下西 昭和24		
退会	37名（自然退会等11名含）		

## 日本女医会誌

復刊第233号 2018年5月1日発行

編集人 花岡和賀子

発行人 前田 佳子

制作 あづま堂印刷製

発行所 公益社団法人日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7

青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail: [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)